

釧路空港環境計画中間評価検討調査

報 告 書

(釧路空港)

平成 22 年 3 月

国土交通省 東京航空局 釧路空港事務所

パシフィックコンサルタンツ株式会社

目次

1. 釧路空港の概要.....	1
2. 釧路空港環境計画の基本方針.....	3
1) 環境に対する背景.....	3
2) 空港環境計画策定の目標.....	3
3) 環境目標の設定の考え方.....	3
4) 実施方針の考え方.....	3
3. 釧路空港エコエアポート協議会の活動状況.....	4
1) 設置の目的.....	4
2) 協議会委員.....	4
4. 空港環境計画の進捗状況と中間評価.....	6
1) 評価の基準.....	6
2) 評価の対象とする範囲.....	7
3) 目標と施策の進捗度.....	7
4) 中間評価のまとめ.....	18
資料.....	21

1. 釧路空港の概要

釧路空港は海岸から約 5km、市街地から北西に約 22km の丘陵地にある第 2 種空港です。道内では新千歳、函館につぐ航空輸送の重要な拠点となっています。

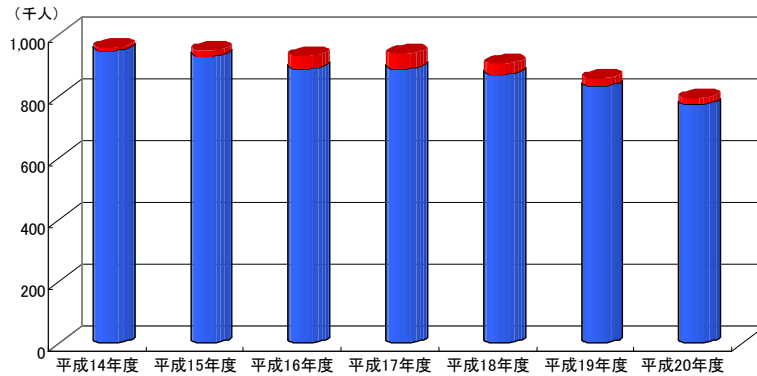
釧路空港は、昭和 36 年 7 月に滑走路 1,200m で供用を開始しました。その後、航空需要が年々大きくなって行くのに合わせて滑走路の拡張を実施してきました。また、平成 7 年度より滑走路 200m の延長工事、ターミナル地域の拡張整備工事が実施され、平成 12 年 11 月滑走路 2,500m の供用を開始しています。

このように釧路空港は道東の空の玄関口として、地域経済の発展に対する大きな役割を担っています。

平成 22 年 3 月現在、国内線は東京路線を始め 5 都市へ日 16 便、国際線は台北、仁川へのチャーター便が運航しています。

平成 20 年度の実績としては、乗降客数約 80 万人、貨物取扱量約 5 千トン、着陸回数約 6 千回を取り扱っています。

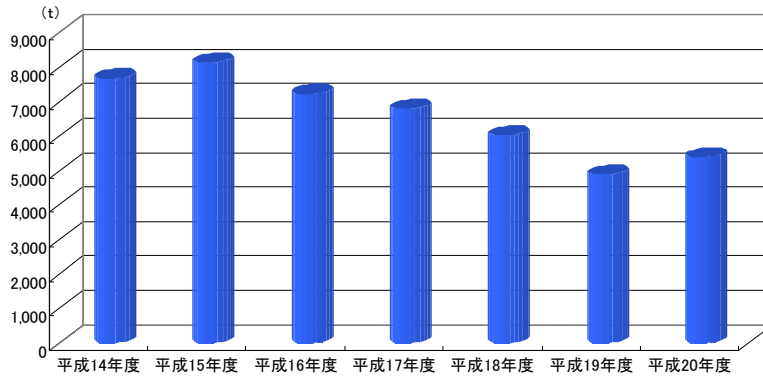




単位：人

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
■ 国際線	9,563	18,509	40,778	47,956	32,244	25,058	19,473
■ 国内線	949,410	931,030	890,726	890,397	873,708	834,074	775,333
合計	958,973	949,539	931,504	938,353	905,952	859,132	794,806

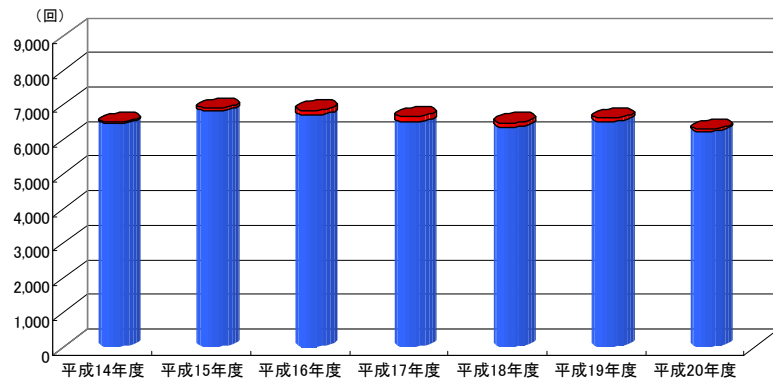
■ 乗降客数



単位：t

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
■ 国際線	0	0	0	0	0	0	0
■ 国内線	7,660	8,127	7,217	6,786	6,008	4,877	5,381
合計	7,660	8,127	7,217	6,786	6,008	4,877	5,381

■ 貨物取扱量



単位：回

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
■ 国際線	36	71	144	160	116	95	73
■ 国内線	6,455	6,823	6,698	6,498	6,363	6,517	6,219
合計	6,491	6,894	6,842	6,658	6,479	6,612	6,292

■ 着陸回数

2. 釧路空港環境計画の基本方針

1) 環境に対する背景

地域温暖化、オゾン層の破壊といった環境問題は、21世紀の人類がその叡智を結集して対応すべき最大の課題の一つであり、これらを解決し、持続的な発展を遂げていくためには資源の消費を抑制し、排出物を削減した循環型社会を構築していくことが必要不可欠である。

このような認識の下、我が国では平成5年に「環境基本法」が、平成21年にはいわゆる「リサイクル関連六法」がそれぞれ制定される等、政府としてこれら環境問題の解決に向けた取り組みを強化しているなか、空港に関連しては、平成12年9月に、運輸政策審議会環境小委員会において、「循環型空港」実現の必要性が確認されたものである。

さらに、平成14年12月の交通政策審議会航空分科会の最終答申においては、環境対策として「さらなる空港と周辺地域との調和のある発展への対応のため、エコエアポートを推進する観点から、従来の周辺対策事業に加え、空港と周辺地域との連携、一体化を推進するための施策や循環型社会の実現等の要請に応じ、空港整備・管理運営に伴う環境負荷を更に軽減するための施策を実施していく必要がある。」とされ、空港における環境改善が強く求められるようになったところである。

2) 空港環境計画策定の目標

釧路空港には、航空会社、ビル会社を始め非常に多くの関係者が存在しているが、これまでそれぞれの立場で一部環境に対する活動に取り組んできた。

今後これらの活動を更に実行あるものにし、かつ、効率よく実施するためには、関係者が一体となり活動を推進するための共通の目標を持つ必要がある。

このため、環境要素ごとの目標、具体的施策、実施スケジュール等から構成される、共通の目標としての空港環境計画を策定するものである。

3) 環境目標の設定の考え方

釧路空港環境計画における環境目標の設定にあたっては、本空港の規模、立地、気候特性を考慮し、環境要素7項目について、発生・消費規模に留意することとした。

なお、施策実施状況を分かり易く掌握するため、空港全体での負荷総量や航空旅客1人当たり負荷量に着目した目標とすることとした。

4) 実施方針の考え方

(1) 目標年度

- ・ 10年後の平成26年度(2014年)を目標年度とする。
- ・ ただし、空港を取り巻く環境の変化や施策の技術動向等を勘案し、必要に応

じて見直すこととする。

(2) 具体的施策及び実施スケジュール

- ・ 策定された空港環境計画の施策の実施にあたっては、国の空港整備計画や施策の技術動向を勘案し、緊急性、早期実施の可能性、他の施策との連携等を考慮のうえ実施していくものとする。
- ・ 目標年度同様、必要に応じて見直すこととする。

(3) 評価及び公表

- ・ 協議会は、毎年、空港環境計画の実施状況及びその評価を「〇〇年度環境レポート」として公表する。
- ・ 協議会は、目標年度の次年度平成 27 年度（2015 年）に「釧路空港環境計画」実施完了後の成果について、最終目標に対する評価を「評価報告書」として公表する。

なお、本報告は、計画策定後概ね5年後に最終目標に対する進捗度の評価を行い、その結果を踏まえ必要に応じて環境目標及び実施計画の見直しを行う「中間評価」として位置づけています。

3. 釧路空港エコエアポート協議会の活動状況

1) 設置の目的

釧路空港内で活動を行う全ての事業者が、環境問題を正しく理解し、問題意識を共有することにより、空港及び空港周辺地域において、環境の保全及び良好な環境の創造を進める対策を実施する空港、すなわちエコエアポートを実現するために設置しました。

2) 協議会委員

協議会を構成する委員は、以下の 16 事業所です。

- ・ 北海道運輸局
- ・ 北海道開発局
- ・ 第一管区海上保安本部
- ・ 釧路地方气象台
- ・ 釧路市
- ・ 白糠町
- ・ 全日本空輸(株)
- ・ 三ツ輪運輸(株)
- ・ 三ツ輪エアサービス(株)
- ・ (株)日本航空ジャパン

- ・日本通運(株)
- ・釧路空港ビル(株)
- ・(財) 空港環境整備協会
- ・国際航空給油(株)
- ・クリーンメンテック(株)
- ・釧路空港事務所

(平成 22 年 3 月現在)

4. 空港環境計画の進捗状況と中間評価

1) 評価の基準

空港環境計画の評価については、計画策定時に定めた環境要素（大気、騒音・振動、水、土壌、廃棄物、エネルギー）ごとに掲げた目標に対する進捗度を、以下のように3段階に分けて評価しました。

■ 目標の評価基準

評価の視点	評価
目標の達成に向かって着実に進捗している	A
基準年（平成14年度）の状況とあまり変化がない	B
基準年（平成14年度）の状況から悪化しつつある	C

また、各環境要素における具体的な施策については、設定方法の違いにより2つのタイプに分類し、それぞれの評価基準を以下のように設けました。また、進捗状況については、5段階に分けて評価を行いました。

■ 施策の評価基準

	評価の区分	
	評価の視点	評価
タイプⅠ 増加、減少や 現状維持を 目指すもの	目標を達成した、あるいは目標の早期達成が期待できる	5
	順調に推移している	4
	遅れているが進展している	3
	目標から遠ざかっている	2
	目標達成に向けてほど遠い	1
タイプⅡ 行動自体が 目標の達成 となるもの	目標を達成した	5
	順調に推移している	4
	遅れているが進展している	3
	目標から遠ざかっている	2
	目標達成に向けてほど遠い	1

2) 評価の対象とする範囲

空港は、その地区・地域における交通の結節点であり、その地区・地域間の交流のシンボルゾーンであるという考え方に立ち、空港内に最重点をおき、以下のように設定します。

- ・ 対象としては、空港内のすべての活動（人、航空機、車、各種設備の稼働等）とします。
- ・ ただし、空港関連の建設工事は、一過性のものであり最終目標対象に直接リンクするものではないことから対象とはしません（なお、工事実施に当たっては、環境に対する影響が最小限になるよう配慮します）。

3) 目標と施策の進捗度

環境レポートのデータや協議会の各事業者から収集したアンケート調査結果に基づき、平成 20 年度における環境要素ごとの目標と施策の進捗度を整理します。

(1) 大気

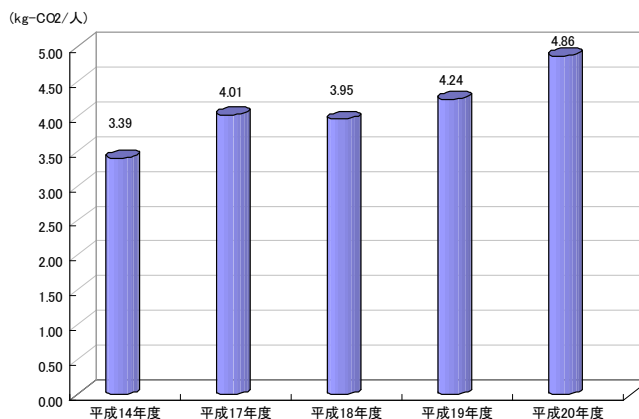
● 目標

【旅客 1 人あたりの CO₂ 排出量を着実に削減する】進捗度：C

大気目標である【旅客 1 人あたりの CO₂ 排出量を着実に削減する】は、基準年である平成 14 年度の 3.39kg-CO₂/人から増減を繰り返し、平成 20 年度には 4.86kg-CO₂/人にまで増加しています。

その理由として、乗客数が平成 14 年度と比べて 15%程度減少しているため、一人あたりの数値が増加したためと考えられます。

このため、大気総合評価については、「基準年（平成 14 年度）の状況から悪化しつつある：C」と評価します。



■ 旅客 1 人あたりの CO₂ 排出量

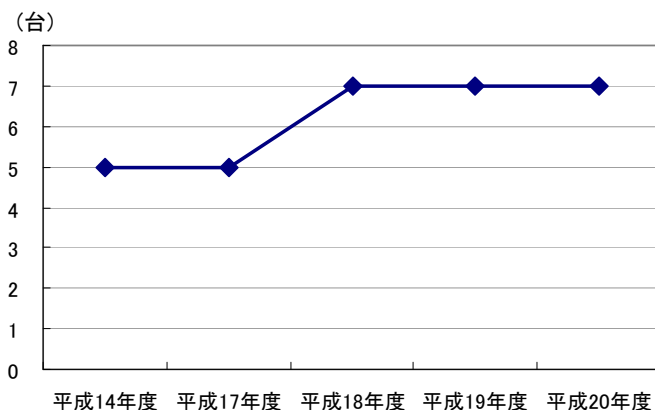
■ 大気に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①技術動向等を勘案し、車両のエコカー化を図る。(タイプⅠ)	1
②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推進する。(タイプⅠ)	3
③アイドリングストップ運動を組織的に推進する。(タイプⅡ)	4

①技術動向を勘案し、車両のエコカー化を図る。 1

エコカー※1の導入状況についてみると、平成20年度時点で導入の実績はありませんでした。これは、現有車両の更新と時期が合わず新規車両の購入ができなかったからと考えられます。

なお、低排出ガス認定車※2については、平成14年度の5台(7%)から更新時の導入により平成20年度には7台(9%)へと増加しつつあります。



■ 低排出ガス認定車の導入台数



※1 エコカーとは、①天然ガス自動車、②電気自動車、③ハイブリッド車、④メタノール自動車、⑤LPG自動車、⑥燃料電池自動車の6種類とします。

※2 低排出ガス認定車とは、いわゆる「平成12年及び17年基準排出ガス 基準達成車」などの低公害車とします。

■ 低排出ガス認定車のステッカー

②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推進する。 **3**

旅客ターミナルビルにおいては、平成 14 年度に通産省の補助事業（NEDO）で空調の手動から自動への切り替えが行われました。各団体共照明施設の省エネタイプ化や高効率化は行われていませんが、常時人が居ない区域の消灯や事務所の照明灯の間引きや減灯等は、ほとんどの団体で行われています。



■ NEDO



↑ 廊下

↓ 執務室



↑ 湯沸室

↓ 印刷室



■ 照明の節電



③アイドリングストップ運動を組織的に推進する。 **4**

定期的にアイドリングストップ運動を行っている事業者は、平成 14 年度はありませんでしたが、平成 20 年度は 3 団体となり、車両のアイドリングストップは進んでいると考えられます。

(2) 騒音・振動

● 目標

【現在より着実に騒音・振動を低減する】進捗度：**B**

騒音・振動の目標である【現在より着実に騒音・振動を低減する】についてみると、具体的な対策は行われていません。

このため、騒音・振動の評価については、「基準年（平成 14 年度）の状況とあまり変化がない：B」と評価します。

■ 騒音・振動に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①GSE 車両等について低騒音型車両への転換をはかる。	1

①GSE 車両等について低騒音型車両への転換をはかる。 **1**

現有車両の更新と時期が合わず、新規車両の導入は行われていません。

(3) 水

● 目標

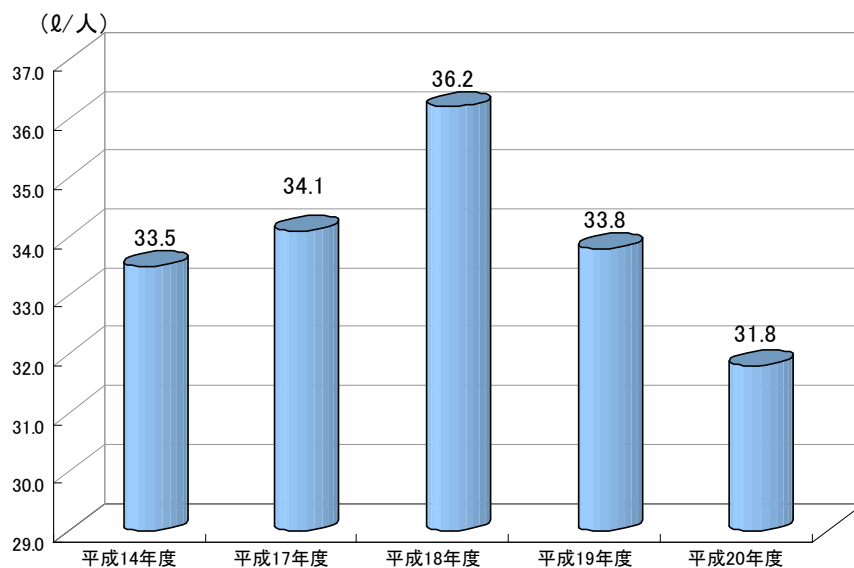
【旅客 1 人あたりの上水使用量及び排水量を着実に削減する】進捗度：**A**

【酢酸系融雪剤の使用率を向上させる】進捗度：**A**

【防水剤の使用量の低減を図る】進捗度：**B**

水の目標である【旅客 1 人あたりの上水使用量及び排水量を着実に削減する】については、平成 14 年度の 33.5ℓ/人から平成 20 年度には 31.8ℓ/人に減少しました。

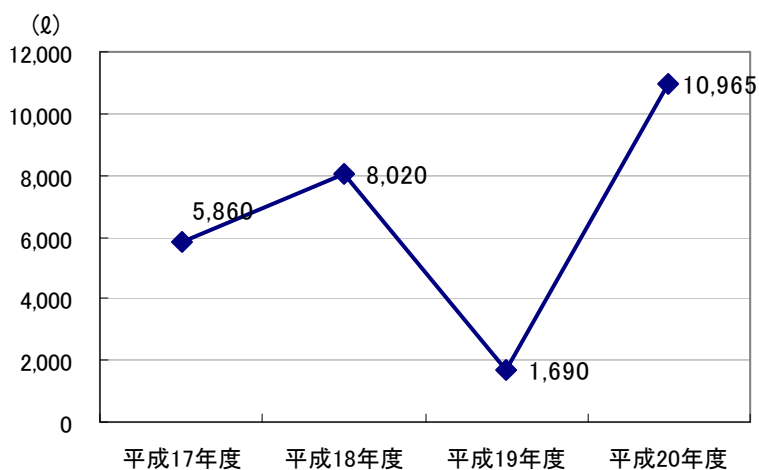
これは、乗降客数が年々減少しているため、一人あたりの数値が減少したためと考えられます。上水使用量の評価については、「目標の達成に向かって着実に進捗している：A」と評価します。



■ 旅客1人あたりの上水使用量

【酢酸系融雪剤の使用率を向上させる】については、平成20年度に、高性能酢酸カリウムが使用されています。このため、酢酸系融雪剤の評価については、「目標の達成に向かって着実に進捗している：A」と評価します。

【防氷剤の使用量の低減を図る】については、年によってその使用量は増減していますが、これは気候に左右されるものと考えられます。このため、防氷剤の使用量の評価については、「基準年（平成14年度）の状況とあまり変化がない：B」と評価します。



■ 防氷剤の使用量

■ 水に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①自動手洗水栓、節水器や節水コマ等の設置により節水を促進する。	3
②節水キャンペーンを実施し、空港旅客も含めた利用者の意識向上に努める。	3
③尿素系融雪剤は、環境負荷のより小さい酢酸系への転換を図る。	5
④防氷剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げることを検討する。	1

①自動手洗水栓、節水器や節水コマ等の設置により節水を促進する。 3

自動手洗水栓、節水器や節水コマ等の設置の対策は行われていませんが、上水の使用量は、年々減少しています。

②節水キャンペーンを実施し、空港旅客も含めた利用者の意識向上に努める。 3

節水キャンペーンは行われていませんが、上水の使用量は、年々減少しています。これは、近年社会全体にエコの気運が高まり、これに伴い節水が実施されているものと考えられます。

③尿素系融雪剤は、環境負荷のより小さい酢酸系への転換を図る。 5

空港事務所において、高性能酢酸カリウムが使用されています。

④防氷剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げることを検討する。 1

防氷剤の使用量は、気候に大きく左右されますが、平成 20 年は過去 4 年間で最も多く使用されました。

(4) 土壌

● 目標

【酢酸系融雪剤の使用率を向上させる】（前出）進捗度： **A**

【防氷剤の使用量の低減を図る】進捗度： **B**

土壌の目標である、【酢酸系融雪剤の使用率を向上させる】については、平成 20 年度に、高性能酢酸カリウムが使用されています。このため、酢酸系融雪剤の評価については、「目標の達成に向かって着実に進捗している：A」と評価します。

【防氷剤の使用量の低減を図る】については、年によってその使用量は増減していますが、これは気候に左右されるものと考えられます。このため、防氷剤の使用量の評価については、「基準年（平成 14 年度）の状況とあまり変化がない：B」と評価します。

■ 土壌に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①尿素系融雪剤は、環境負荷の小さい酢酸系への転換を図る。	5
②防氷剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げること検討する。	1

①尿素系融雪剤は、環境負荷のより小さい酢酸系への転換を図る。 5

空港事務所において、高性能酢酸カリウムが使用されています。

②防氷剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げること検討する。 1

防氷剤の使用量は、気候に大きく左右されますが、平成 20 年は過去 4 年間で最も多く使用されました。

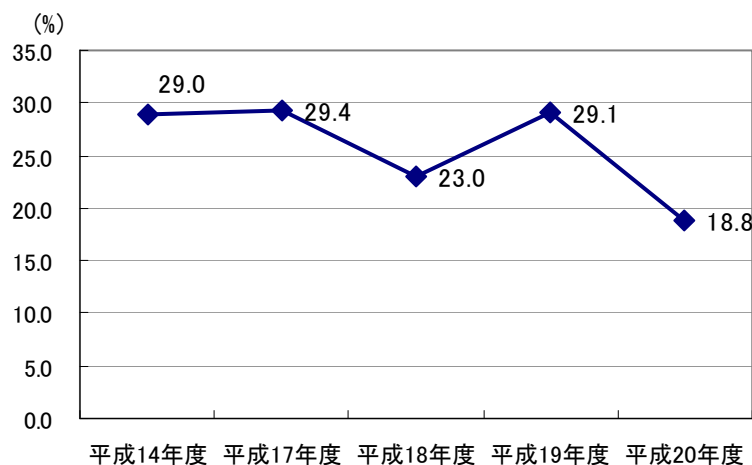
(5) 廃棄物

● 目標

【一般廃棄物のリサイクル率を向上させる】進捗度：C

廃棄物の目標である、【一般廃棄物のリサイクル率を向上させる】については、平成 14 年度の 29%から平成 20 年度は 18.8%と低下しました。

このため、廃棄物の総合評価については、「基準年（平成 14 年度）の状況から悪化しつつある：C」と評価します。



■ 一般廃棄物のリサイクル率



■ グリーン調達やコピー紙再利用の実施

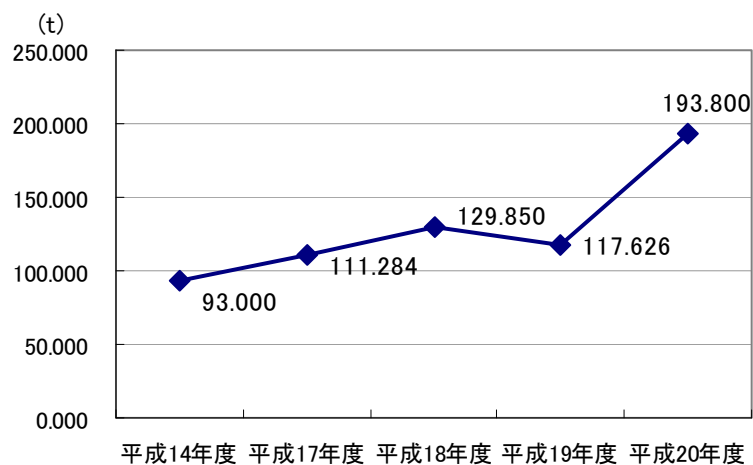
■ 廃棄物に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①一般廃棄物は排出事業者ごとの発生量の把握と、ごみの減量化キャンペーン（再生製品の積極的採用、紙使用量の削減、空港利用者への呼び掛け等）を実施する。（タイプⅡ）	2
②産業廃棄物（建設廃棄物および検疫不合格品等を含む）は発生量および処理、有効利用方法を把握し、3Rを軸とした継続的な削減を行っていく。（タイプⅡ）	2

①一般廃棄物は排出事業者ごとの発生量の把握と、ごみの減量化キャンペーン（再生製品の積極的採用、紙使用量の削減、空港利用者への呼び掛け等）を実施する。

2

各事業者の一般廃棄物の発生量は把握されていますが、量は年々増加しています。



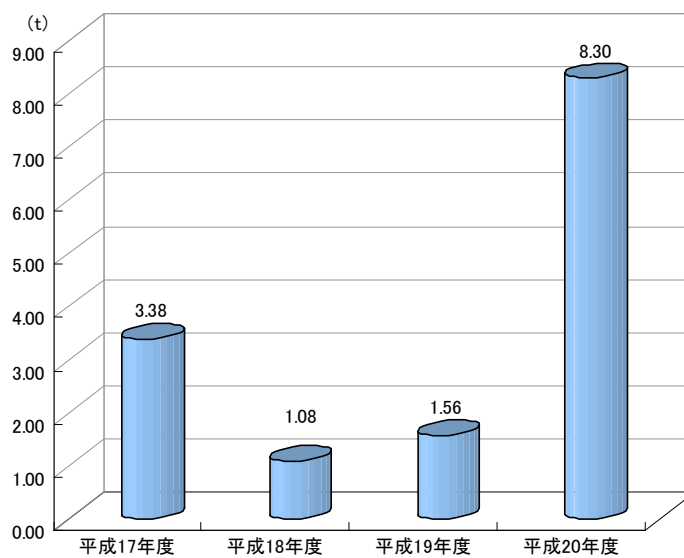
■ 一般廃棄物の発生量



■ ゴミの分別回収状況

②産業廃棄物（建設廃棄物および検疫不合格品等を含む）は発生量および処理、有効利用方法を把握し、3Rを軸とした継続的な削減を行っていく。 2

各事業者の産業廃棄物の発生量は、年度により増減がありますが、増加傾向にあります。平成20年度の発生量が多いのは、空港事務所における機器更新等のためと考えられます。



■ 産業廃棄物の発生量

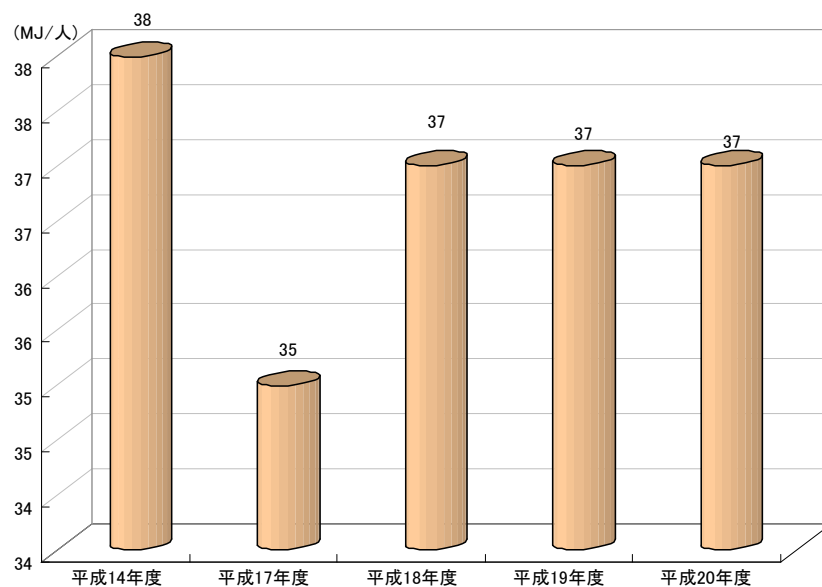
(6) エネルギー

● 目標

【旅客1人あたりのエネルギー消費量を着実に削減する】進捗度：A

エネルギーの目標である、【旅客1人あたりのエネルギー消費量を着実に削減する】については、平成14年度の38MJ/人から平成17年度以降37MJ/人に減少しています。

このため、エネルギーの総合評価については、「目標の達成に向かって着実に進捗している：A」と評価します。



■ 旅客1人あたりのエネルギー消費量



■ 省エネルギーの推進

■ エネルギーに関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①技術動向等を勘案し、車両のエコカー化を図る。(タイプⅠ)	1
②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推進する。(タイプⅠ)	3
③アイドリングストップ運動を組織的に推進する。	4

- ①技術動向等を勘案し、車両のエコカー化を図る。(タイプⅠ) 1 (前出)
- ②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推進する。(タイプⅠ) 3 (前出)
- ③アイドリングストップ運動を組織的に推進する。 4 (前出)

(7) 自然環境

■ 自然環境に関する具体的な施策の進捗度

具体的な施策	進捗度
①空港内の緑化については、可能な限り保全・向上させる。(タイプⅡ)	3
②空港周辺環境については、空港として十分配慮した空港運営を行う。(タイプⅡ)	3

- ①空港内の緑化については、可能な限り保全・向上させる。 3
 空港内の屋外の緑化については、平成 14 年度以降変化はありませんが、一部事業者の事務所で緑化が進んでいます。



■ 緑化の取り組み

- ②空港周辺環境については、空港として十分配慮した空港運営を行う。 3
 空港内事業者により、アクセス道路のゴミ拾いが 1~2 回/年行われています。



4) 中間評価のまとめ

これまでの空港環境計画における各環境要素ごとの進捗状況を総合的に評価します。評価方法としては、目標の進捗状況と各施策の進捗状況の平均値を、以下のようマトリックスで客観的に評価しました。

目標の評価 各施策の進捗状況（平均値）	A	B	C
平均値 3.5 以上			
平均値 2.5~3.5			
平均値 2.5 未満			

総合的な評価により、以下のような結果となりました。

環境要素の 総合評価	目標と具体的な施策	進捗状況 の評価
(1)大気 	【旅客1人あたりのCO ₂ 排出量を着実に削減する】	C
	①技術動向を勘察し、車両のエコカー化を図る。	1
	②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推進する。	3
	③アイドリングストップ運動を組織的に促進する。	4
(2)騒音・振動 	【現在より着実に騒音・振動を低減する】	B
	①GSE 車両等について低騒音型車両への転換をはかる。	1
(3)水 	【旅客1人あたりの上水使用量及び排水量を着実に削減する】	A
	①自動手洗水栓、節水器や節水コマ等の設置により節水を促進する。	3
	②節水キャンペーンを実施し、空港旅客も含めた利用者の意識向上に努める。	3
	【酢酸系等融雪剤の使用率を向上させる】	A
	③尿素系融雪剤は環境負荷のより小さい酢酸系等への転換を図る。	5
	【防水剤の使用量の低減を図る】	B
	④防水剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げることを検討する。	1
(4)土壌 	【酢酸系融雪剤の使用率を向上させる】	A
	①尿素系融雪剤は、環境負荷のより小さい酢酸系等への転換を図る。	5
	【防水剤の使用量の低減を図る】	B
	②防水剤については、散布機の高性能化を図り散布効率を上げることを検討する。	1

環境要素の 総合評価	目標と具体的な施策	進捗状況 の評価
(5) 廃棄物 	【一般廃棄物のリサイクル率を向上させる】	C
	①一般廃棄物は排出事業者ごとの発生量の把握と、ごみの減 量化キャンペーン(再生製品の積極的採用、紙使用量の削減、 空港利用者への呼び掛け等)を実施する。	2
	②産業廃棄物(建設廃棄物および検疫不合格品等を含む)は 発生量および処理、有効利用方法を把握し、3Rを軸とした 継続的な削減を行っていく。	2
(6) エネルギ ー 	【旅客1人あたりのエネルギー消費量を着実に削減する】	A
	①技術動向等を勘案し、車両のエコカー化を図る。	1
	②各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、高効率化を推 進する。	3
	③アイドリングストップ運動を組織的に推進する。	4
(7) 自然環境	①空港内の緑化については、可能な限り保全・向上させる。	3
	②空港周辺環境については、空港として十分配慮した空港運 営を行う。	3

資料

エネルギー消費量

年度	施設用					車両用	
	電気	ガス	その他				
	売電 (kwh)	プロパンガス (m ³)	A重油 (ℓ)	軽油 (ℓ)	灯油 (ℓ)	軽油 (ℓ)	ガソリン (ℓ)
平成17年度	5,829,020	13,261	153,970	1,314	65,545	42,848	24,911
平成18年度	5,640,766	14,664	144,200	1,437	64,442	60,258	30,698
平成19年度	5,488,421	13,904	129,700	1,326	64,738	54,451	24,466
平成20年度	5,370,122	10,905	111,300	1,099	59,888	59,700	12,147

種別	単位発熱量	出典
電気	3.6 MJ/kwh	総合エネルギー統計の解説(2009年6月)独立行政法人経済産業研究所)
プロパンガス	50.2 GJ/t	地域温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年6月)環境省
A重油	39.1 GJ/kℓ	地域温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年6月)環境省
軽油	38.2 GJ/kℓ	地域温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年6月)環境省
灯油	36.7 GJ/kℓ	地域温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年6月)環境省
ガソリン	34.6 GJ/kℓ	地域温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年6月)環境省

※プロパンガス: 1 m³ = 2kg

年度	エネルギー消費量 (MJ)	旅客数 (人)	旅客1人当りエネルギー 消費量(MJ/人)
平成17年度	33,290,504	938,353	35
平成18年度	33,201,195	905,952	37
平成19年度	31,578,637	859,132	37
平成20年度	29,719,849	794,806	37

CO2排出量

年度	CO2排出量 (kg-CO2)	旅客数 (人)	旅客1人当りCO2排出量 (kg-CO2/人)
平成17年度	3,764,694	938,353	4.01
平成18年度	3,579,027	905,952	3.95
平成19年度	3,641,379	859,132	4.24
平成20年度	3,864,411	794,806	4.86

車両関係

年度	空港全体車両(台)	エコカー(台)	低燃費・低排出ガス認定車(台)	低騒音型車両(台)
平成17年度	77	0	5	0
平成18年度	78	0	7	0
平成19年度	78	0	7	0
平成20年度	78	0	7	0

上水道

年度	井戸水使用量(m ³)	旅客数(人)	旅客1人当りの水使用量(ℓ/人)
平成17年度	31,978	938,353	34.1
平成18年度	32,770	905,952	36.2
平成19年度	29,035	859,132	33.8
平成20年度	25,264	794,806	31.8

融雪剤(液状)

年度	液状融雪剤総使用量(ℓ)
平成17年度	26,870
平成18年度	21,520
平成19年度	6,300
平成20年度	25,660

融雪剤(粒状)

年度	粒状融雪剤総使用量(t)	酢酸・蟻酸系融雪剤使用量(t)	酢酸・蟻酸系融雪剤使用率(%)
平成17年度	0.250	0.250	100
平成18年度	12.475	12.475	100
平成19年度	0.000	0.000	-
平成20年度	0.250	0.250	100

一般廃棄物

年度	一般廃棄物発生量(t)	リサイクル処理量(t)	リサイクル率(%)	産業廃棄物発生量(t)	特別管理産業廃棄物発生量(t)
平成17年度	111.284	32.680	29.4	3.380	0.300
平成18年度	129.850	29.900	23.0	1.082	0.400
平成19年度	117.626	34.270	29.1	1.561	0.400
平成20年度	193.800	36.490	18.8	8.300	0.200

年度集計

種別	内訳		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	5,829,020	5,640,766	5,488,421	5,370,122
		プロパンガス	m ³	13,260.9	14,664.3	13,904.0	10,905.2
		A重油	ℓ	153,970	144,200	129,700	111,300
		軽油	ℓ	1,314	1,437	1,326	1,099
		灯油	ℓ	65,545	64,442	64,738	59,888
	車両用	軽油	ℓ	42,848	60,258	54,451	59,700
		ガソリン	ℓ	24,911	30,698	24,466	12,147
水使用	上水使用	井戸水	m ³	31,978	32,770	29,035	25,264
	下水処理量		m ³	2,579	2,580	2,026	2,027
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ	5,010	4,500	610	640
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ	5,860	8,020	1,690	10,965
	除雪用(TYPE I)		ℓ	16,000	9,000	4,000	13,324
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t	0.250	12.475	0.000	0.250
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ	0	0	0	731
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t	111.284	129.850	117.626	193.800
	産業廃棄物発生量		t	3.380	1.082	1.561	8.300
	特別管理産業廃棄物		t	0.3	0.4	0.4	0.2
	リサイクル処理量		t	32.68	29.90	34.27	36.49
車両	エコカー		台	0	0	0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台	5	7	7	7
	低騒音型者慮用		台	0	0	0	0
	その他		台	72	71	71	71
	合計		台	77	78	78	78

平成17年度

種別	内訳		単位	国土交通省東京航空局釧路空港事務所						合計	釧路地方気象台釧路空港出張所
				庁舎	電源局舎	除雪車庫	整備作業所	消防庁舎	医療作業車庫		
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	2,256,890						2,256,890	141,087
		プロパンガス	m ³					791.7		791.7	
		A重油	ℓ								
		軽油	ℓ		1,314					1,314	
	車両用	灯油	ℓ	17,400		15,400	4,500	13,300	5,500	56,100	2,900
		軽油	ℓ							1,510	
水使用	上水使用	井戸水	m ³	3,778						3,778	
		下水処理量	m ³								
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ								
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ								
	除雪用(TYPE I)		ℓ								
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t							0.250	
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ								
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t							10.324	0.5
	産業廃棄物発生量		t							0.41	
	特別管理産業廃棄物		t								
	リサイクル処理量		t								0.1
車両	エコカー		台							0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台							3	0
	低騒音型者慮用		台							0	0
	その他		台							22	1
	合計		台							25	1

平成17年度

25

種別	内訳	単位	第一管区海上保安本部釧路航空基地	(財)空港環境整備協会	全日本空輸(株)、三ツ輪運輸(株)、三ツ輪エアサービス(株)	(株)日本航空ジャパン、日本通運(株)	釧路空港ビル(株)	クリーンメンテック(株)	国際航空給油(株)	合計	
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	82,260	42,200		3,248,000		58,583	5,829,020	
		プロパンガス	m ³	62.3	20.9		12,366		20	13,260.9	
		A重油	ℓ	19,000			134,970			153,970	
		軽油	ℓ							1,314	
		灯油	ℓ		3,200		3,345			65,545	
	車両用	軽油	ℓ	400			25,638		15,300	42,848	
		ガソリン	ℓ	814			11,850	9,267	570	24,911	
水使用	上水使用	井戸水	m ³		69		28,131			31,978	
		下水処理量	m ³	29			2,550			2,579	
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ			5,010				5,010	
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ			5,860				5,860	
	除雪用(TYPE 1)		ℓ				16,000			16,000	
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t							0.250	
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ							0	
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t	1.79		2.64	19.74	75.79	0.5	111.284	
	産業廃棄物発生量		t	0.82			0.11	1.74	0.3	3.38	
	特別管理産業廃棄物		t						0.3	0.3	
	リサイクル処理量		t				4.84	27.74		32.68	
車両	エコカー		台	0	0	0	0	0	0	0	
	低燃費・低排出ガス認定車		台	0	1	0	0	1	0	5	
	低騒音型考慮用		台	0	0	0	0	0	0	0	
	その他		台	4	0	18	20	0	1	6	72
	合計		台	4	1	18	20	1	1	6	77

平成18年度

種別	内訳		単位	国土交通省東京航空局釧路空港事務所						釧路地方気象 台釧路空港出 張所	
				庁舎	電源局舎	除雪車庫	整備作業所	消防庁舎	医療作業車庫		合計
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	2,151,480						2,151,480	116,135
		プロパンガス	m ³					879.9		879.9	
		A重油	ℓ								
		軽油	ℓ		1,437					1,437	
		灯油	ℓ	15,300		13,950	4,700	18,850	3,200	56,000	2,300
	車両用	軽油	ℓ							1,550	
		ガソリン	ℓ							3,000	200
水使用	上水使用	井戸水	m ³	4,058						4,058	
	下水処理量		m ³								
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ								
	防水用(KILFROST ABC-S)		ℓ								
	除雪用(TYPE I)		ℓ								
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t							12.475	
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ								
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t							7.850	0.5
	産業廃棄物発生量		t							0.00	
	特別管理産業廃棄物		t								
	リサイクル処理量		t								0.2
車両	エコカー		台							0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台							4	1
	低騒音型者慮用		台							0	0
	その他		台							22	0
	合計		台							26	1

平成18年度

種別	内訳		単位	第一管区海上保安本部釧路航空基地	(財)空港環境整備協会	全日本空輸(株)、三ツ輪運輸(株)、三ツ輪エアサービス(株)	(株)日本航空ジャパン、日本通運(株)	釧路空港ビル(株)	クリーンメンテック(株)	国際航空給油(株)	合計
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	81,249	46,000			3,189,000		56,902	5,640,766
		プロパンガス	m ³	48.4	21.0			13,695		20	14,664.30
		A重油	ℓ	23,000				121,200			144,200
		軽油	ℓ								1,437
		灯油	ℓ		2,900			3,242			64,442
	車両用	軽油	ℓ	400		19,290	24,718			14,300	60,258
		ガソリン	ℓ	440		200		16,790	9,458	610	30,698
水使用	上水使用	井戸水	m ³		67			28,645			32,770
	下水処理量		m ³	30				2,550			2,580
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ			4,500					4,500
	防水用(KILFROST ABC-S)		ℓ			8,020					8,020
	除雪用(TYPE I)		ℓ				9,000				9,000
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t								12.475
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ								0
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t	2.27		3.18	25.36	90.29		0.4	129.85
	産業廃棄物発生量		t	0.582			0.13	0.07		0.3	1.082
	特別管理産業廃棄物		t							0.4	0.4
	リサイクル処理量		t				5.52	24.18			29.9
車両	エコカー		台	0	0	0	0	0	0	0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台	0	1	0	0	1	0	0	7
	低騒音型者慮用		台	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他		台	4	0	18	20	0	1	6	71
	合計		台	4	1	18	20	1	1	6	78

平成19年度

種別	内訳		単位	国土交通省東京航空局釧路空港事務所						釧路地方気象 台釧路空港出 張所	
				庁舎	電源局舎	除雪車庫	整備作業所	消防庁舎	医療作業車庫		合計
エネルギー使用 量	施設用	売電	kwh	2,058,160						2,058,160	97,854
		プロパンガス	m ³					762.1		762.1	
		A重油	ℓ								
		軽油	ℓ		1,326					1,326	
		灯油	ℓ	19,700		7,650	4,700	22,100	2,050	56,200	3,000
	車両用	軽油	ℓ							1,500	
		ガソリン	ℓ							2,640	100
水使用	上水使用	井戸水	m ³	4,207						4,207	
	下水処理量		m ³								
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ								
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ								
	除雪用(TYPE I)		ℓ								
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t							0.000	
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ								
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t							7.648	0.2
	産業廃棄物発生量		t							0.481	
	特別管理産業廃棄物		t								
	リサイクル処理量		t								
車両	エコカー		台							0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台							4	1
	低騒音型者慮用		台							0	0
	その他		台							22	0
	合計		台							26	1

平成19年度

種別	内訳		単位	第一管区海上保安本部釧路航空基地	(財)空港環境整備協会	全日本空輸(株)、三ツ輪運輸(株)、三ツ輪エアサービス(株)	(株)日本航空ジャパン、日本通運(株)	釧路空港ビル(株)	クリーンメンテック(株)	国際航空給油(株)	合計
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	61,485	52,200			3,163,000		55,722	5,488,421
		プロパンガス	m ³	48.9	25.0			13,052		16	13,904.00
		A重油	ℓ	25,000				104,700			129,700
		軽油	ℓ								1,326
		灯油	ℓ		3,500			2,038			64,738
	車両用	軽油	ℓ	400		15,910	22,641			14,000	54,451
		ガソリン	ℓ	471		200		11,590	8,825	640	24,466
水使用	上水使用	井戸水	m ³		61			24,767			29,035
		下水処理量	m ³	26				2,000			2,026
融雪剤		融雪用(KILFROST DF PLUS)	ℓ			610					610
		防氷用(KILFROST ABC-S)	ℓ			1,690					1,690
		除雪用(TYPE I)	ℓ				4,000				4,000
		蟻酸ナトリウム(粒状)	t								0.000
		高性能酢酸カリウム(液状)	ℓ								0
廃棄物量		一般廃棄物発生量	t	2.378		2.78	22.85	81.37		0.4	117.626
		産業廃棄物発生量	t				0.14	0.04		0.9	1.561
		特別管理産業廃棄物	t							0.4	0.4
		リサイクル処理量	t				6.31	27.96			34.27
車両		エコカー	台	0	0	0	0	0	0	0	0
		低燃費・低排出ガス認定車	台	0	1	0	0	1	0	0	7
		低騒音型者慮用	台	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	台	4	0	18	20	0	1	6	71
		合計	台	4	1	18	20	1	1	6	78

平成20年度

種別	内訳		単位	国土交通省東京航空局釧路空港事務所						釧路地方気象 台釧路空港出 張所	
				庁舎	電源局舎	除雪車庫	整備作業所	消防庁舎	医療作業車庫		合計
エネルギー使用 量	施設用	売電	kwh	2,060,970						2,060,970	69,379
		プロパンガス	m ³					465.2		465.2	
		A重油	ℓ								
		軽油	ℓ		1,099					1,099	
		灯油	ℓ	19,450		11,000	3,500	14,400	3,150	51,500	3,000
	車両用	軽油	ℓ							1,700	
		ガソリン	ℓ							2,720	200
水使用	上水使用	井戸水	m ³	3,867						3,867	
		下水処理量	m ³								
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ								
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ								
	除雪用(TYPE I)		ℓ								
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t							0.250	
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ							731	
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t							5.124	0.3
	産業廃棄物発生量		t							6.360	
	特別管理産業廃棄物		t								
	リサイクル処理量		t								0.1
車両	エコカー		台							0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台							4	1
	低騒音型者慮用		台							0	0
	その他		台							22	0
	合計		台							26	1

平成20年度

種別	内訳		単位	第一管区海上保安本部釧路航空基地	(財)空港環境整備協会	全日本空輸(株)、三ツ輪運輸(株)、三ツ輪エアサービス(株)	(株)日本航空ジャパン、日本通運(株)	釧路空港ビル(株)	クリーンメンテック(株)	国際航空給油(株)	合計
エネルギー使用量	施設用	売電	kwh	83,579	54,800			3,043,000		58,394	5,370,122
		プロパンガス	m ³	34	30.0			10,347		29	10,905.20
		A重油	ℓ	19,000				92,300			111,300
		軽油	ℓ								1,099
		灯油	ℓ		3,500			1,888			59,888
	車両用	軽油	ℓ	200		18,860	26,000			12,940	59,700
		ガソリン	ℓ	333		200		920	7,300	474	12,147
水使用	上水使用	井戸水	m ³		50			21,347			25,264
		下水処理量	m ³	26.5				2,000			2,026.5
融雪剤	融雪用(KILFROST DF PLUS)		ℓ			640					640
	防氷用(KILFROST ABC-S)		ℓ			1,790	9,175				10,965
	除雪用(TYPE I)		ℓ				13,324				13,324
	蟻酸ナトリウム(粒状)		t								0.250
	高性能酢酸カリウム(液状)		ℓ								731
廃棄物量	一般廃棄物発生量		t	1.416		12.2	46.79	127.57		0.4	193.8
	産業廃棄物発生量		t	0.66			0.34	0.54		0.4	8.3
	特別管理産業廃棄物		t							0.2	0.2
	リサイクル処理量		t				15.13	21.16		0.1	36.49
車両	エコカー		台	0	0	0	0	0	0	0	0
	低燃費・低排出ガス認定車		台	0	1	0	0	1	0	0	7
	低騒音型者慮用		台	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他		台	4	0	18	20	0	1	6	71
	合計		台	4	1	18	20	1	1	6	78

釧路空港CO₂排出量算定(平成17年度)

取扱旅客数 938,353 人
 発着回数 6,658 回
 貨物取扱量 6,786 トン
 スポット数 6 スポット(内オープンスポット 〇〇)
 CO₂使用量 3,764,694 トン

CO ₂ 排出係数 原単位	電力	都市ガス	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	A重油	熱※3
	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /Nm ³	kg-CO ₂ /m ³	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /MJ
	0.502	2.08	6.51	2.32	2.58	2.49	2.71	0.057

係数は環境省地球環境局「温室効果ガス総排出量算定ガイドライン(平成19年3月)」及び掲載産業省資源エネルギー庁「標準発熱量の検討結果と改訂値について(平成19年5月)」の資料を参照。
 電力及び熱の係数は、温室効果ガスを多量に排出する者(電気事業者等)の排出係数を使用することが出来る。

大分類	小分類	電力 kWh/年	都市ガス m ³ /年	ガス(LPG) m ³ /年	ガソリン ℓ/年	軽油 ℓ/年	灯油 ℓ/年	A重油 ℓ/年	熱※3 MJ/年	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /年	備 考
施設関連	釧路空港ビル(株)	3,248,000		12,366			3,345	134,970		2,085,096	
	釧路空港事務所管轄施設	2,397,977		792		1,314	59,000			1,359,239	
	海上保安部 釧路航空基地	82,260		62				19,000		93,190	
	空港環境整備協会	42,200		21			3,200			29,288	
	国際航空給油(株)	58,583		20						29,539	
	クリーンメンテック(株)										
車両関連	GSE及びその他車両				24,911	42,848				168,341	
	計	5,829,020		13,261	24,911	44,162	65,545	153,970		-	
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂ /年)	2,926,168		86,328	57,794	113,938	163,207	417,259		3,764,694	

- ※1 車両は空港内で活動する車両
- ※2 航空機、バス、タクシー、及び自家用車における燃料消費は含まない
- ※3 熱を供給する事業者が使用する電力及びガス等の燃料が含まれていない場合は、空港に供給した熱量を対象とする
- ※4 共用飛行場は民間エリアのみとする

●エコエアポートの推進によるCO₂削減効果

項 目	設備規模	使用時間 [h/年]	発電量 [kWh/年]	削減効果量 [kg-CO ₂]	備 考
1 航空機用地上動力設備(GPU)	スポット数		-		
2 新エネルギーの(太陽光発電等)	kW	-			
3 エコカー	台	-	-	-	
4 屋上緑化	m ²	-	-	-	

釧路空港CO₂排出量算定(平成18年度)

取扱旅客数 905,952 人
 発着回数 6,479 回
 貨物取扱量 6,008 トン
 スポット数 6 スポット(内オープンスポット 〇〇)
 CO₂使用量 3,579,027 トン

CO ₂ 排出係数 原単位	電力	都市ガス	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	A重油	熱※3
	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /Nm ³	kg-CO ₂ /m ³	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /MJ
	0.479	2.08	6.51	2.32	2.58	2.49	2.71	0.057

係数は環境省地球環境局「温室効果ガス総排出量算定ガイドライン(平成19年3月)」及び掲載産業省資源エネルギー庁「標準発熱量の検討結果と改訂値について(平成19年5月)」の資料を参照。
 電力及び熱の係数は、温室効果ガスを多量に排出する者(電気事業者等)の排出係数を使用することが出来る。

大分類	小分類	電力 kWh/年	都市ガス m ³ /年	ガス(LPG) m ³ /年	ガソリン ℓ/年	軽油 ℓ/年	灯油 ℓ/年	A重油 ℓ/年	熱※3 MJ/年	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /年	備 考
施設関連	釧路空港ビル(株)	3,189,000		13,695			3,242	121,200		1,953,210	
	釧路空港事務所管轄施設	2,267,615		880		1,437	58,300			1,240,790	
	海上保安部 釧路航空基地	81,249		48				23,000		101,563	
	空港環境整備協会	46,000		21			2,900			29,392	
	国際航空給油(株)	56,902		20						27,386	
	クリーンメンテック(株)										
車両関連	GSE及びその他車両				30,698	60,258				226,685	
	計	5,640,766		14,664	30,698	61,695	64,442	144,200		-	
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂ /年)	2,701,927		95,465	71,219	159,173	160,461	390,782		3,579,027	

- ※1 車両は空港内で活動する車両
- ※2 航空機、バス、タクシー、及び自家用車における燃料消費は含まない
- ※3 熱を供給する事業者が使用する電力及びガス等の燃料が含まれていない場合は、空港に供給した熱量を対象とする
- ※4 共用飛行場は民間エリアのみとする

●エコエアポートの推進によるCO₂削減効果

項 目	設備規模	使用時間 [h/年]	発電量 [kWh/年]	削減効果量 [kg-CO ₂]	備 考
1 航空機用地上動力設備(GPU)	スポット数		-		
2 新エネルギーの(太陽光発電等)	kW	-			
3 エコカー	台	-	-	-	
4 屋上緑化	m ²	-	-	-	

釧路空港CO₂排出量算定(平成19年度)

取扱旅客数 859,132 人
 発着回数 6,612 回
 貨物取扱量 4,877 トン
 スポット数 6 スポット(内オープンスポット 〇〇)
 CO₂使用量 3,641,379 トン

CO ₂ 排出係数 原単位	電力	都市ガス	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	A重油	熱※3
	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /Nm ³	kg-CO ₂ /m ³	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /MJ
	0.517	2.08	6.51	2.32	2.58	2.49	2.71	0.057

係数は環境省地球環境局「温室効果ガス総排出量算定ガイドライン(平成19年3月)」及び掲載産業省資源エネルギー庁「標準発熱量の検討結果と改訂値について(平成19年5月)」の資料を参照。
 電力及び熱の係数は、温室効果ガスを多量に排出する者(電気事業者等)の排出係数を使用することが出来る。

大分類	小分類	電力 kWh/年	都市ガス m ³ /年	ガス(LPG) m ³ /年	ガソリン ℓ/年	軽油 ℓ/年	灯油 ℓ/年	A重油 ℓ/年	熱※3 MJ/年	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /年	備 考
施設関連	釧路空港ビル(株)	3,163,000		13,052			2,038	104,700		2,009,051	
	釧路空港事務所管轄施設	2,156,014		762		1,326	59,200			1,270,450	
	海上保安部 釧路航空基地	61,485		49				25,000		99,856	
	空港環境整備協会	52,200		25			3,500			35,865	
	国際航空給油(株)	55,722		16						28,912	
	クリーンメンテック(株)										
車両関連	GSE及びその他車両				24,466	54,451				197,245	
	計	5,488,421		13,904	24,466	55,777	64,738	129,700		-	
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂ /年)	2,837,514		90,515	56,761	143,905	161,198	351,487		3,641,379	

- ※1 車両は空港内で活動する車両
- ※2 航空機、バス、タクシー、及び自家用車における燃料消費は含まない
- ※3 熱を供給する事業者が使用する電力及びガス等の燃料が含まれていない場合は、空港に供給した熱量を対象とする
- ※4 共用飛行場は民間エリアのみとする

●エコエアポートの推進によるCO₂削減効果

項 目	設備規模	使用時間 [h/年]	発電量 [kWh/年]	削減効果量 [kg-CO ₂]	備 考
1 航空機用地上動力設備(GPU)	スポット数		-		
2 新エネルギーの(太陽光発電等)	kW	-			
3 エコカー	台	-	-	-	
4 屋上緑化	m ²	-	-	-	

釧路空港CO₂排出量算定(平成20年度)

取扱旅客数 794,806 人
 発着回数 6,292 回
 貨物取扱量 5,381 トン
 スポット数 6 スポット(内オープンスポット 〇〇)
 CO₂使用量 3,864,411 トン

CO ₂ 排出係数 原単位	電力	都市ガス	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	A重油	熱※3
	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /Nm ³	kg-CO ₂ /m ³	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /ℓ	kg-CO ₂ /MJ
	0.588	2.08	6.51	2.32	2.58	2.49	2.71	0.057

係数は環境省地球環境局「温室効果ガス総排出量算定ガイドライン(平成19年3月)」及び掲載産業省資源エネルギー庁「標準発熱量の検討結果と改訂値について(平成19年5月)」の資料を参照。
 電力及び熱の係数は、温室効果ガスを多量に排出する者(電気事業者等)の排出係数を使用することが出来る。

大分類	小分類	電力 kWh/年	都市ガス m ³ /年	ガス(LPG) m ³ /年	ガソリン ℓ/年	軽油 ℓ/年	灯油 ℓ/年	A重油 ℓ/年	熱※3 MJ/年	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /年	備 考
施設関連	釧路空港ビル(株)	3,043,000		10,347			1,888	92,300		2,111,477	
	釧路空港事務所管轄施設	2,130,349		465		1,099	54,500			1,394,214	
	海上保安部 釧路航空基地	83,579		34				19,000		100,856	
	空港環境整備協会	54,800		30			3,500			41,133	
	国際航空給油(株)	58,394		29						34,524	
	クリーンメンテック(株)										
車両関連	GSE及びその他車両				12,147	59,700				182,207	
	計	5,370,122		10,905	12,147	60,799	59,888	111,300		-	
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂ /年)	3,157,632		70,993	28,181	156,861	149,121	301,623		3,864,411	

- ※1 車両は空港内で活動する車両
- ※2 航空機、バス、タクシー、及び自家用車における燃料消費は含まない
- ※3 熱を供給する事業者が使用する電力及びガス等の燃料が含まれていない場合は、空港に供給した熱量を対象とする
- ※4 共用飛行場は民間エリアのみとする

●エコエアポートの推進によるCO₂削減効果

項 目	設備規模	使用時間 [h/年]	発電量 [kWh/年]	削減効果量 [kg-CO ₂]	備 考
1 航空機用地上動力設備(GPU)	スポット数		-		
2 新エネルギーの(太陽光発電等)	kW	-			
3 エコカー	台	-	-	-	
4 屋上緑化	m ²	-	-	-	